



古川 一美 議員

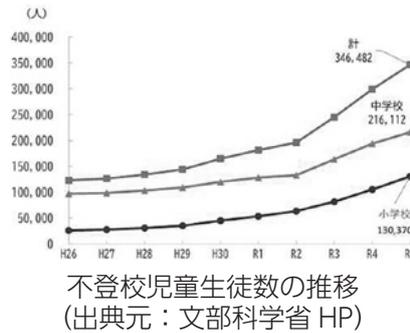


## 不登校への対策について

**問** 全国的に不登校児童生徒数が増えている。①市の現状、②支援体制について伺う。③支援の選択肢を増やすため民間施設との連携も深めるべきでは。

**答（教育部長）** ①不登校児童生徒数は、年々増加傾向にある。②各学校で家庭訪問等を行い、令和7年度は全中学校に校内教育支援センターを設置する。③学校内外の関係機関と連携し、

小さなSOSを見逃さないようチームによる支援に注力する。



## 道徳教育について

**問** 厳しい社会状況の中で自助論の精神が重要になる。課題に向き合い自立心を育てるために道徳教育をどう充実させるか。

**答（教育長）** 自ら考え、他者と交流し合い、道徳的な判断力等を養う教育活動の場面を設定することで、社会をたくましく生

き抜く子どもたちを育てていく。

## 事務事業評価について

**問** 社会保障費が増大し続ける中で、自由に使える予算が限られてくる。市民が納める税金を少しでも有効活用するために、自己点検を強化し、税金の使い方や事業評価結果を分かりやすく公開すべきと考える。①事業評価の対象、②評価方法、③今後の改善点について伺う。

**答（企画政策部長）** ①原則、全事業が対象である。②内部評価、監査委員による決算審査や事業評価書を議会へ報告している。③ホームページの公表方法の見直しや、外部評価導入に向け調整していきたい。



秋庭 繁 議員



## 水道事業の経営の一体化について

**問** ①市町村単独の水道事業を県の企業局に経営統合する流れおよび古河市の参加に伴う市民の合意、説明について、②現在参加する市町村、参加しない、検討中の市町村の数について、③南摩ダムの完成後の負担金による水道料金の値上げについて、以上を伺う。

**答（上下水道部長）** ①3年程度以内に経営の一体化、経営の統

合を進めていきたい。市民へは、料金や経営変更などについて「みずTIMES」等の配布や、状況に応じた手法で情報発信していく。②参加団体は21市町村、検討中が12市町村および団体、参加せずが10団体である。③今後、南摩ダムの負担金が増えてくる。最終的には水道料金の値上げもやむを得ないだろうが、国の交付金の活用や企業努力をし、なるべく低い料金設定を維持していくつもりである。



## 〔(仮称)古河市新公会堂基本構想・基本計画市民委員会〕について

**問** 市民委員会は、当初の建設候補地1（旧古河体育館跡地）が多数だったが、今回候補地2（大堤地内）に多数決で決めた。多数の委員が指摘した交通渋滞、洪水リスク、埋め立て地の課題は説明されたのか伺う。

**答（企画政策部長）** 複数のアクセス動線の確保と安全性などから、大堤地内の方が優位性があるとして選定に至ったと理解している。浸水対応については、周辺エリアに影響のないよう地盤のかさ上げや調整池を整備し、必要な対応を検討する。